1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072200276		
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム あきつの		
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178		
自己評価作成日	令和3年8月16日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3072200276-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染予防の為面会の制限や外出に出掛ける機会が少なくなりましたが、日々の生活を一緒に楽しく、笑顔で過ごす事をスタッフの心得とし、生活の中で食事作り、洗濯、掃除等利用者様が主体的に動ける場面を提供し、生きがいをもち生活でき、利用者様、家族様にとって居心地の良い環境作り、安心して生活が送れるよう支援しています。又、将来スタッフが過ごしたいと思えるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、入居者・スタッフとも互いに楽しく生活できる環境作りを心掛け日々支援を行っている。スタッフは、入居者が居心地良く自分らしく生活できているか配慮に努めるとともに、どうすれば良いかを常に考え学ぶ意欲にあふれている。入居者に対する言葉掛けについても、使用する言葉の意味合いをはじめ、内容が相手の感情に悪影響を及ぼさないか等配慮を欠かさず、スタッフ同士も気になったことはきちんと話合うようにしている。日々入居者に寄り添い安心安全な支援を図るなかで、入居者とスタッフの関係は良好であり、それに伴う暖かな雰囲気がある事業所を包んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目にすることができる場所に掲示する事で、日頃から意識し共有できる職場環境を管理者と職員がつくり、実践に取り組んでいる。	地域に密着した環境や事業所の意義を踏まえて理念を見直し、「出来る限り元気に笑顔で暮らしていただけるように」を合言葉として掲示し、職員間で共有を図り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブ等には出掛けたが、感染予防の為近くのスーパーに出掛ける事がなく、法人の夏祭りは今年度も中止となり地域の方との交流がほとんどなかったが、保育園児との交流は直接会っての交流はなかったが、定期的に園児の作品や手紙を頂いたり、ホームからは入居者様手作りの干支の壁飾りを送り交流は続いている。	感染症予防のため外部からの面会や交流会への参加は控えているが、保育園児から定期的に写真や手紙を受け取り、入居者もフェルトで干支の手作りした作品を届けるなど交流が絶えないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の為地域の学生の体験学習、ボランティアの受け入れは行っていないが、電話での問い合わせ等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、開催が困難と判断した時には文書開催が望ましいという事で、議事録に対し委員皆様に評価、要望、助言等頂き、意見をサービスの向上に活かせるように努めている。	感染症予防のため開催できない時期には、文書開催として、日頃参加していただいている民生委員等に情報提供や活動報告を送っている。また、そこから出された意見を参考にし、今後の活動に活かしていくよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催が困難な時には議事録を困った事があれば、訪問、電話で相談させて頂いている。又、市町村が開催する研修に参加し情報交換を行うようにしている。	市町村担当者に入居者のワクチン接種や状況、研修会参加報告と内部研修の内容など活動状況報告書を送ったり、研修案内の情報を受け取るなど連絡を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加を行い理解を深め、カンファレンスでも言葉の拘束などしていないか確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回は身体拘束委員会を開催し、参加出来なかった職員には内部研修で伝達を行い職員間で共有を図っている。言葉や衣服の汚れなど具体的な身体拘束に繋がる部分も注意しており、管理者は職員から質問を受ければきちんと返答できるよう日々研鑽に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待に関する理解を深め、会議等で話す機会を作り、虐待を見過ごさないよう防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い権利擁護について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に説明に疑問点などないか十分時間をとり、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の訪問時には意見や要望を排出しやすくする為必ず声を掛け、又、面会禁止期間が長い為定期的に電話を掛けそこで得られた意見などをホームの会議で話し合いサービスに反映させるように努めている。	面会は、感染予防対策を徹底した状況のもと実施しており、遠方の家族には、写真や動画をラインで送ったり、リモートで面会してもらっている。また、家族より意見を聞き取り、サービスに反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時には必ず職員の意見を聞き、又、職員個々に意見を聞く機会を作ったり、毎月の会議では全職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	管理者は、申し送り時や日頃から口頭で職員一人ひとりの意見を聞いたうえで、勤務体制や休日の取り方などチーム間で協力できる体制を整えることに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や能力を把握し、職員が前向きに働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度法人の研修に参加し、外部研修にも多くの職員が受講できるようにしており、研修で学んだ内容を報告する機会を作り、技術や知識を身につける工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進委員会に参加したり、電話で情報交換を行ったりしサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、心身の状態や思い、不安に耳を傾け、安心して生活して頂けるように、ご本人、御家族と相談し他利用者と交流が持つ馴染めるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って、家族が求めているものを理解し、どのような対応ができるか事前に話し合いができる環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い、状況などを理解し、困っている事や不安な事に対し、どのような支援を必要としているかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いの尊重、さりげない介助、礼儀を大切にし、ゆったりと楽しく家族の1員として職員も一緒に過ごし、日々生活のなかで色々な事を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関わりをより深め、利用者の心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、意見や希望を出してもらいやすい雰囲気を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書いたり、電話を掛ける機会をつくり馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍に伴う感染症予防のため、直接の面会や交流は控えているが、手紙や写真を送っている。最近は電話で話す機会が増えており、今までの関係性が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りを行い、又、利用者の心身の状況や気分、感情の変化に注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切に、必要があれば相談や支援をおこなうように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には思いや暮らしの希望を聞いているが、思いや希望が変わってくる為、日々のかかわりの中で言葉や表情からどのように暮らしたいか、何をしたいかを見つけ、職員間で共有し、希望や意向の把握に努めている。	アセスメント票や認知症センター方式シートを用いて入居者の心身の情報や希望を聞き取り記入し、入居者が自分の思いを上手く表現できなくても、日々の暮らしの中から汲み取れるよう職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境について情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、その方の心身の状態、発揮できる力を暮らしの中で発見し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で意識的に本人が求めている事を引き出し、又、本人や家族の思いを基に本人、家族、関係者と相談し、介護計画に反映させています。	入居者ごとに担当者を決め、入居者や家族の意向・医師の意見をもとに、3か月ごとにモニタリング表を作成のうえ介護計画に反映させる等、きめ細やかな支援が実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や話された言葉、食事量排泄等身体的な状況など記録し、個人記録を基に介護計画を見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様のニーズに対応できるよう支援しています。通院支援等その方に合った柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の情報を得て地域資源は把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族、また職員の意見もよく聞き、適切な助言をしてくれ、ホームとの信頼関係を築きながら相談に応じてもらえるかかりつけ医の確保ができています。希望に応じて他の医療機関の受診を支援している。	毎月1回の往診と年1回は定期健診を受けている。家族の送迎で受診してもらうこともあったが、感染症予防のため専門医療機関にも職員が付き添いで受診し病状把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師が週一回来て下さる他、日々の体調や状態の変化時の報告、相談はいつでもでき、24時間対応して頂ける体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、早期退院ができるように医療機関と話し合い、協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には急変時や緊急時の対応の説明及び意向確認をし、本人にとってどうすることが一番良いのか早期から本人、家族と話す機会を作りホームで出来る事を十分に説明し終末期には家族、医師、看護師、職員間で十分話し合い方針を共有している。	早期から急変時や終末期の対応について確認し、希望に沿うよう法人内でも対応策を共有し、最期まで望む暮らしを実現できるよう取り組んでいる。実際に看取りも経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、応急処置や初期対応の訓練を定期的な受け、実践力を身に付けているようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、併設施設の職員の協力を得られるようにしている。又運営推進会議を通して地域の方の協力も得られるようにしている。	令和3年度は、年2回の実施計画を立て、内1回は消防署立ち合いのもと消防訓練を実施した。もう1回については、実施日が雨天だった影響を鑑み、入居者の安全を第一に考え、屋外への避難訓練は転倒の危険があることから、入居者は見学する対応を行った。なお、訓練には、地域の協力を得られる体制が整えられている。	感染症予防対策を講じ、災害マップも活用し昼夜の災害に備えた消防訓練を実施できることを今後も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛け、気持ち良く過ごして頂けるような言葉かけや対応を心がけている。	入居者一人ひとりの人格や生活歴などを考慮するとともに、言葉や態度で入居者のプライバシーを損ねることがないように配慮している。管理者及び職員間は、外部の研修に積極的に参加し、内部研修においても入居者への対応の方法を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	慌てさせる事のないよう、本人の動きや言葉をゆっくり待ち、得意な事、できる事をみつけ、それを活かしていく場面を作り、常に利用者の方に決めてもらえるような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、本人のペースを大切に見守りながら、一緒に過ごす時間をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など利用者の好みで選んで頂き、又、希望があれば定期的に美容師さんに来てもらい希望のヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、買い物に出かけ季節の食材を選び、一人ひとりの力を活かし一緒に楽しみながら食事作りを行ったり、感染予防の為職員は一緒に食事はしていないが同じ物を食べ、後片付けも一緒にしている。	入居者から希望を聞き、一週間ごとに栄養士も交えてメニューを一緒に考えている。食材の皮むきや切るなど出来ることは手伝ってもらっており、誕生日には入居者の好みの料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材もできるだけ多くの物を取り入れ、バランスを考え、定期的に法人内の管理栄養士にメニューをチェックしてもらい、アドバイスしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった歯ブラシを使い毎食後声掛け、セッティングでできるだけ自己にて口腔ケアをして頂き、口腔ケア後必ず職員が口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援しています。又、ほとんどの方はオムツカバーは使用せず尿取りパットのみで過ごして頂いています。	個々の排泄パターンを把握し、紙パンツから布パンツへの変更が出来ている。排泄記録にとらわれず、職員間で連携と共有を図り排泄を促している。併せてサポートゼリー等と便座での姿勢で自然排便を促す取組みがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食材を取り入れたり、水分を多く飲用して頂けるように声かけし、又、トイレの姿勢を整える為クッションや足置き台を使用し腹圧がかかりやすいようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数、順番、好みの湯温等、一人ひとりにあわせ、入浴もゆっくりと一人で入って頂けるよう支援しています。	基本は2日に1回は入浴し、夏は毎日入浴を実践している。洗身時のシャワー椅子も新調し、浴槽内滑り止めマットを使用している。入浴剤やゆず湯など用いて気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個別の状態や疲労に応じて休息をとるように声掛けを行っている。夜間も眠れない方に対しては、できる限り薬を服用しないで眠れるようにその原因を把握し、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、確実に服薬してもらえるように介助している。又、処方されている薬の内容を個人カルテに綴り、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、食器洗い、洗濯たたみ等本人の有する力が発揮でき、充実感や役割を持つように支援しています。又、レクリエーション等気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為戸外に出掛ける機会が少なくなったが、ホームの職員、入居者様だけでドライブに出掛けられるよう支援している。	例年、遠足やドライブを実施しているが、コロナ禍に伴う感染症予防のため入居者の安全第一を考え控えている状況である。敷地内にある植物に水やりをしてもらったり、近所を散歩する機会を作っている。また、季節の花々を見にドライブして気分転換を図るなどの工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はおこづかいを自己管理されており、買い物時には利用者が直接支払いを行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達に携帯電話で話される方や電話を掛けたいと言われた時には事務所の電話を利用してもらい、話される時には職員は席を離れるよう配慮し、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる作品と一緒に作成、行事の作品を掲示し、ソファの位置は生活しやすいように定期時に見直し、また明るさや室温を調整し過ごしやすい環境に配慮しています。	入居者がフロアで過ごしやすいう、季節によってソファなど家具の配置を換えたり、空調や温度調節もこまめに行っている。入居者と職員が共同でフェルトにて作った干支の飾りや、四季を感じられるよう飾り付けが共用空間にはなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性などに配慮し、ゆっくり過ごせ、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある私物をお持ちいただき、居心地のいい場所となるよう本人、家族の協力を得ている。	居室の壁は明るい色調で、床は木の温もりを感じる作りとなっている。入居者の馴染みの物を持ち込んでもらい、入居者一人ひとりの居心地の良い環境作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化などに考慮し、利用者の現在の状況に応じて生活環境を整えるように努めている。		